琉球大学学術リポジトリ

糸満市字与座における農村公園整備にむけての住民意識の調査

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2008-02-08 キーワード (Ja): 住民, 地域資源, 農村公園, アンケート調査 キーワード (En): inhabitants, regional resource, village park, questionnaire survey 作成者: 中村, 真也, 森, 麻里子, 宜保, 清一, Nakamura, Shinya, Mori, Mariko, Gibo, Seiichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/3422

糸満市字与座における農村公園整備にむけての住民意識の調査

中村　真也*・森　麻里子**・宜保　清一***

Shinya NAKAMURA, Mariko MORI and Seiichi GIBO: Inhabitants consciousness survey concerning the village park improvement in Yoza, Itoman

キーワード：住民，地域資源，農村公園，アンケート調査

Key words : inhabitants, regional resource, village park, questionnaire survey

Summary

A questionnaire on inhabitants consciousness concerning the village park improvement in Yoza of Itoman-city reveals the following facts. "Yoza-Ga" (a spring-well) and "Yoza-Baba" (a riding ground) are highly appraised as the regional resources. People expect that "Yoza-Ga" is made ready for use as a water amenity spot and "Yoza-Baba" as a place of recreation and relaxation. The plan to improve both "Yoza-Ga" and "Yoza-Baba" is desired to be made in connection with installation of a new promenade as visitors are easy to use. High participation of inhabitants in planning of rural improvement in Yoza will give a guarantee of maintenance and management of a new facility furnished in the good environment.

緒　言

わが国では，豊かさとゆとりを実感できる社会の構築に向けた国民の意識の高まりの中で，地域の特性を生かした美しい農村環境を保全・創出するための環境整備が求められてきている。このような状況の下，機能性に加えて「快適さ」と「美しさ」を兼ね備えた魅力ある総合的な村づくりが各地で展開されている。

* 鹿児島大学大学院連合農学研究科

** 田幸技建コンサルタント（株）

*** 琉球大学農学部

琉球大学農学部学術報告　**47**：97～106（2000）

本研究では，糸満市字与座を対象に，地域資源を生かした農村公園整備にむけての住民の意識を把握するためのアンケート調査を実施し，その結果について分析した。

調査の概要

1．調査対象地の概要

字与座は，糸満市の東部に位置する純農村集落で，高台にある上与座と低地の下与座からなる。人口は740人（男376人，女364人）で，世帯数は195である[1]。与座集落の南方の与座岳に「与座グスク」があり，上与座に湧水の「与座ガー」と「与座馬場」がある。

与座地区では，近年，人口の高齢化や就業構造の変化に伴い，住民同士の交流や地域とのふれあいの機会が減少傾向にある。これまで，「与座ガー」や「与座馬場」が住民の交流の場として地域の生活に密接に関わってきたが，現在では生活環境や生活様式の変化から利用者も減り，その役割を十分に果たすこともなくなってきた。そこで，このような地域資源の利活用を通して農村集落におけるアメニティの向上を図る必要がある。現在，生活環境・社会環境の保全・整備のための，①コミュニティセンターの設立，②コミュニティセンターに隣接する「与座馬場」を利用した公園整備，③「与座ガー」及び周辺の公園整備，④文化財の継承に関する事業，および⑤下水道整備が計画されている。

2．整備地の概要

「与座ガー」は，古くから飲料水や洗濯等の生活用水として利用され，地域の生活と密接に関わってきた。太平洋戦争以前，「与座ガー」の豊富な水は，高嶺製糖工場の用水，水車を用いて動力源として利用されていた[2]。現在は，農業用水に利用されているが，上水道の整備により利用者が減少している。地域資源として，歴史的にも高く評価される場所である[3]。今後，「与座ガー」の周辺を含む親水性の公園化により住民の憩いの場，自然と親しむ場としての利活用が期待される。

「与座馬場」は，古くは馬の競走や綱引きなどが行われ，歴史性のある場所である。馬場内には拝所があり，現在でも「御願」が行われているが，伝統行事として毎年行われていた綱引きが5年に1度実施されるだけである等，その利用頻度も減少している。馬場に隣接して，コミュニティセンターの建設が予定されていることから，一体的な整備を図ることにより住民のレクリエーションの場および健康増進の場として利活用されることが望まれている。

3．調査方法

与座地区の自治会長へのヒアリング，現地踏査，およびアンケートによる住民意識調査を行った。アンケートは配票調査法により行い，対象者を直接訪問して趣旨を説明した上で回答を依頼し，再度訪問して回収した。なお，集落は上与座から下与座側に広がり発展してきていることと，整備対象資源の「与座ガー」と「与座馬場」は上与座に位置していることから，地域資源等に対する住民の意識に違いが期待される。

調査結果および考察

1．アンケートと被験者属性

アンケートは70世帯の協力を得た。被験者は120人で，上与座が70人，下与座が50人であった（**表―1**）。被験者の属性は，年代別にみると，上与座では回答者の31％が40代であり，次いで10～20代と60代がそれぞれ14％，12％となっている。下与座では40代，60代の回答が多かった。職業別にみると，上与座では主婦，会社員，公務員が多く，農業者は8.6％と少ない。下与座では会社員と農業者が約20％を占め

ていた。

農業者のほとんどが60代以上であり，与座地区における農業者の高齢化が伺える。また，その他の年代では会社員，公務員が多く，このことが地域と接する機会の減少につながっていると考えられる。全体的にみて，高年齢層の割合が多く，その活動は活発である。整備にあたっては，高齢者の憩いの場の確保およびバリアフリー環境の実現に留意する必要がある。

表－1　被験者の属性

上与座

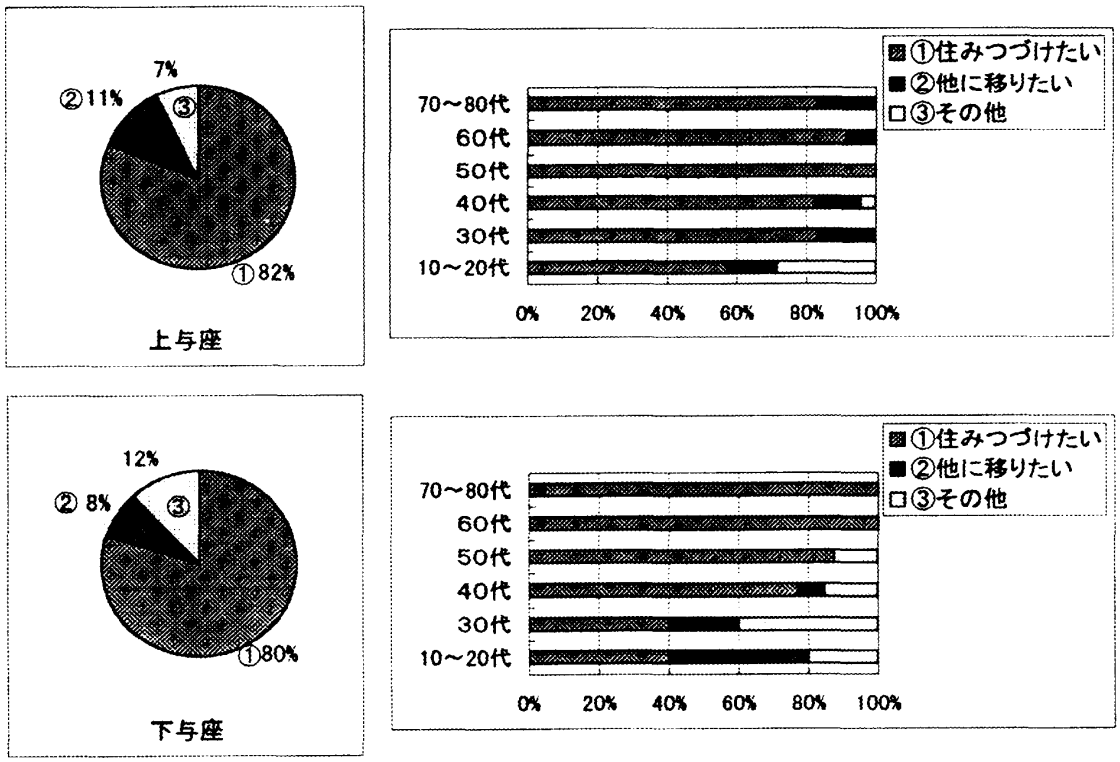
年齢層	農業	会社勤務	公務員	自営業	パート	主婦	中学生	高校生 大学生	おじいさん	おばあさん	他	計
10～20代	0	1	1	0	0	0	4	8	0	0	0	14
30代	1	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
40代	1	3	8	1	4	5	0	0	0	0	0	22
50代	0	2	1	0	1	4	0	0	0	0	1	9
60代	4	1	0	0	0	2	0	0	3	1	1	12
70～80代	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	0	6
計	6	11	10	2	5	13	4	8	5	4	2	70

下与座

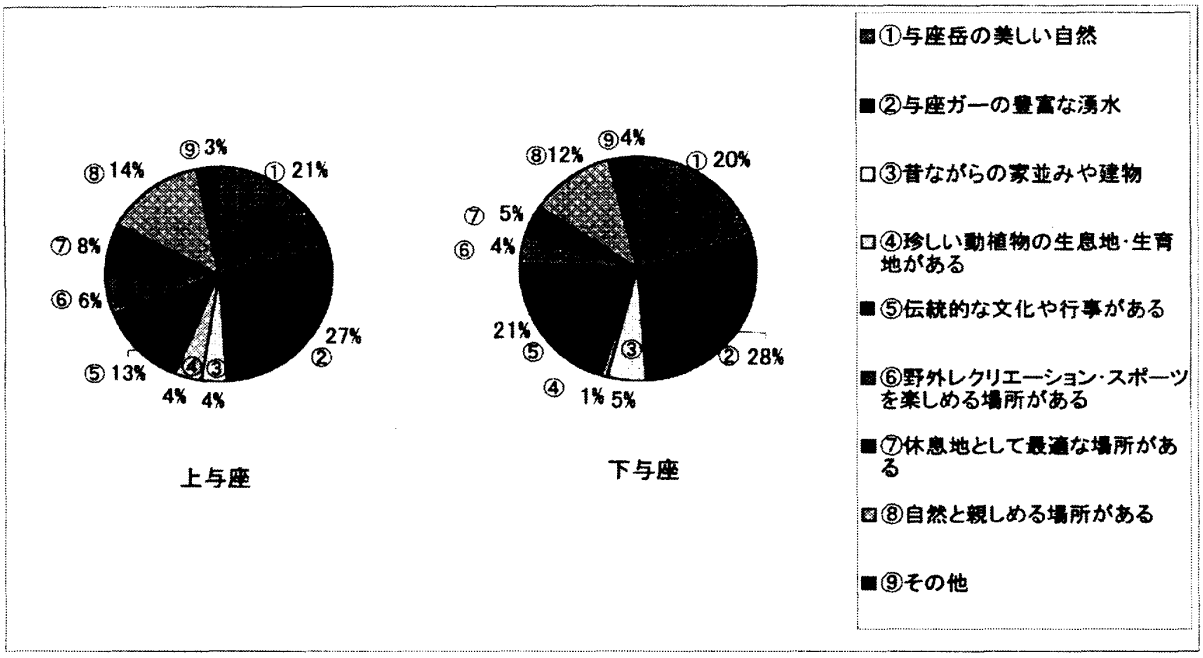
年齢層	農業	会社勤務	公務員	自営業	パート	主婦	中学生	高校生 大学生	おじいさん	おばあさん	他	計
10～20代	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	5
30代	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	5
40代	0	6	3	0	0	2	0	0	0	0	1	12
50代	0	2	1	2	1	1	0	0	0	0	1	8
60代	4	1	0	0	2	0	0	0	1	0	2	10
70～80代	4	0	0	1	0	1	0	0	1	3	0	10
計	9	10	6	3	4	4	3	1	2	3	5	50

2．生活空間の評価

設問「今後も与座に住みつづけたいか」に対して，「住みつづけたい」との回答が上与座で82%，



図－1　問「今後も与座地区に住みつづけたいですか」に対する回答



図－2　地域資源に対する認識

下与座で80%を占め，地区への愛着度はかなり高いことが分かる（図－1）。「他に移りたい」「その他」と答えた理由として，①年をとってから移住した，②行事等が多いため忙しくて自分の時間がもてない，③結婚すれば必然的に移り住むことになる等を挙げている。「便利が悪い」「快適でない」等の生活環境に対する不満は挙がっていない。

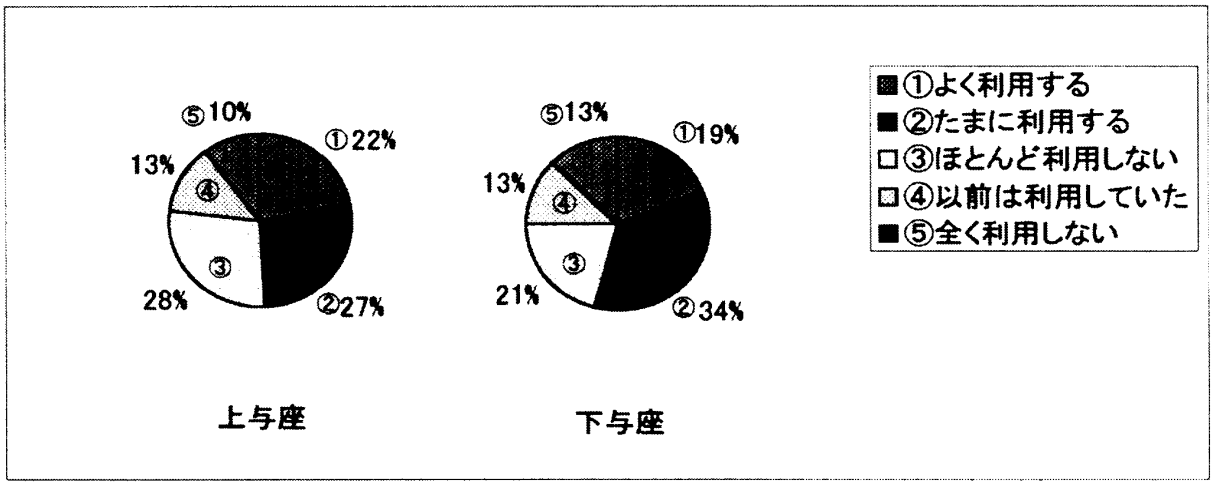
地域資源に対する認識を把握するために，地区に対し好感の持てるものについて多重選択式で回答を求めた。図－2に示すように，「与座岳の美しい自然」と「与座ガーの豊富な湧水」が両地区において約半分を占め，次いで，「伝統的な文化や行事」が多い。これらの3点が与座地区の保持すべき地域資源として高く評価されている。一方，「昔ながらの家並み」「スポーツを楽しむ場所」「休息地としての場所」への評価は低かった。「自然と親しめる場所がある」の回答が上与座で14%，下与座で12%となったに対して，「動植物の生息地・生育地」としての評価は上与座で4%，下与座で1%と極端に低い。これは，自然の存在と動植物の生息が必ずしも一致していないことを意味しており，動植物の生息・生育環境の破壊等についての認識の低さや，特異な動植物でないと他に誇れる地域資源ではないとの認識の仕方が反映されているようである。

3.「与座ガー」に対する意識

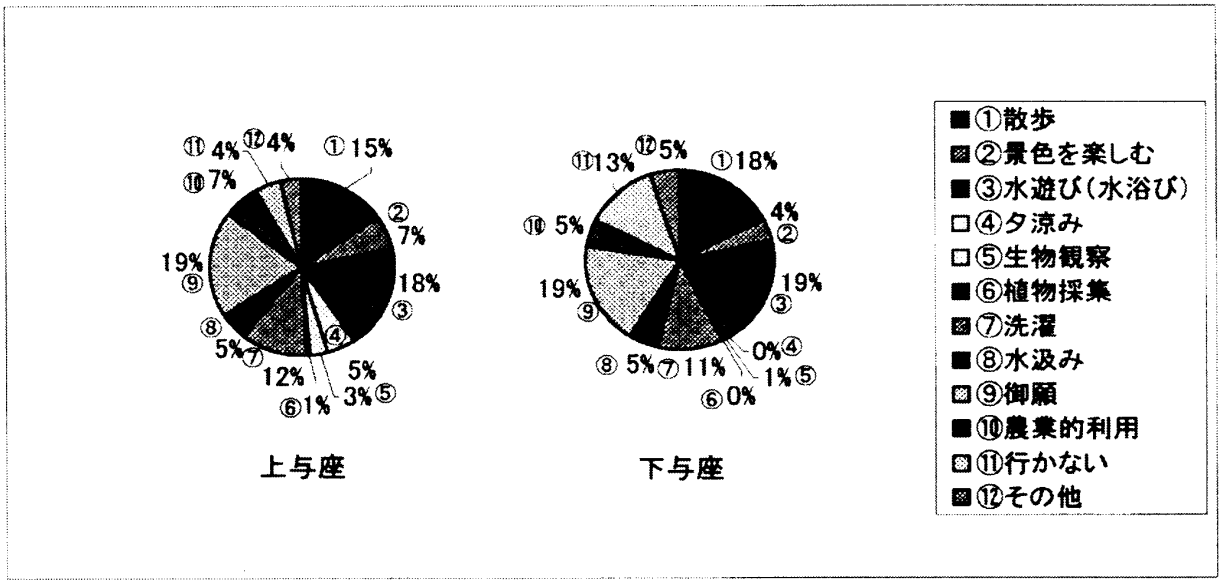
利用頻度及び利用目的：図－3に示すように，「与座ガー」の利用について，「よく利用する」「たまに利用する」が上与座で53%，下与座で49%と，約半数が利用している。「与座ガー」が上与座に位置していることの影響は読みとりにくい。利用しない理由としては，「時間がない」が半数を占めていた。図－4に示すように，利用目的は，「散歩」「水遊び（水浴び）」「御願」「洗濯」が多く，ここでも動植物に対する関心が低い。下与座に比べて，上与座の利用目的は多種多様である。また，以前の与座ガーの利用法として，飲料水，洗濯水等の生活用水や農業用水としての利用が挙げられ，与座ガーが住民の生活に密接に関わってきたことが分かる。さらに，製糖工場への利用や水車の動力源としての利用等もあったことが分かった。

整備に対する希望：これに対しては多重選択式で回答を求めた。図－5に示すように，「水の清らかさ」「水のふれやすさ」を望むものが多く，水に対して関心度が高い。次いで，「安全性」が挙げられて

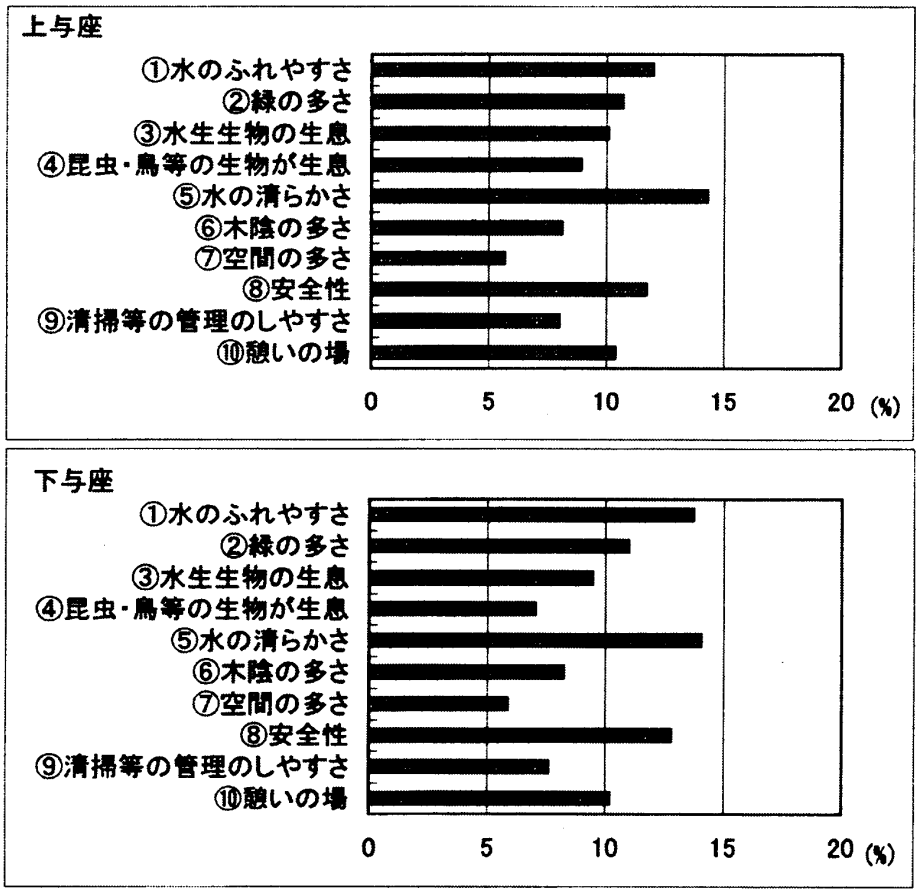
いることからも，親水性が重視されていることが分かる。また，「緑が多い」「憩いの場」としての整備が求められ，生物に対する意識は低く，自然を生態系としてではなく景観の美しさとして捉える傾向が伺える。湧水・井戸は沖縄の暮らしを支えてきた大切な場所としてその価値は高い[4]。与座地区においても，湧水の地域資源としての評価は高く，「親水空間」「やすらぎ空間」としての整備が期待されていると言える。



図－3　与座ガーの利用度



図－4　与座ガーの利用目的

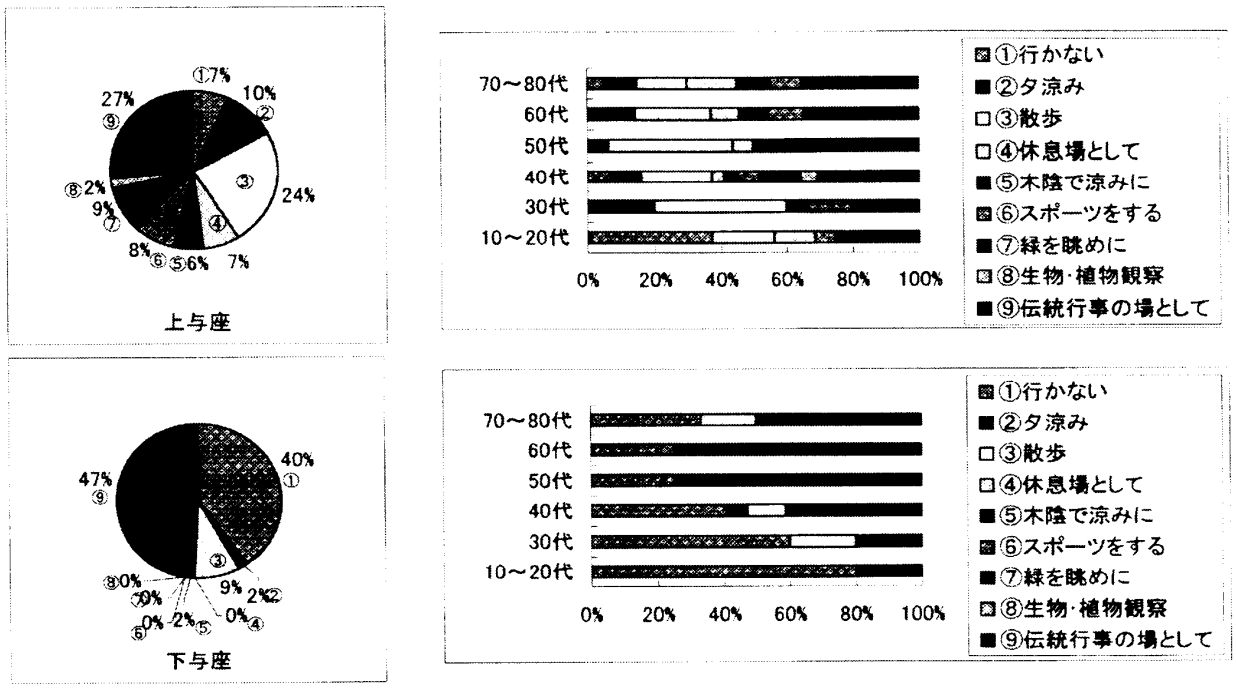


図－5 与座ガー公園整備に対する希望

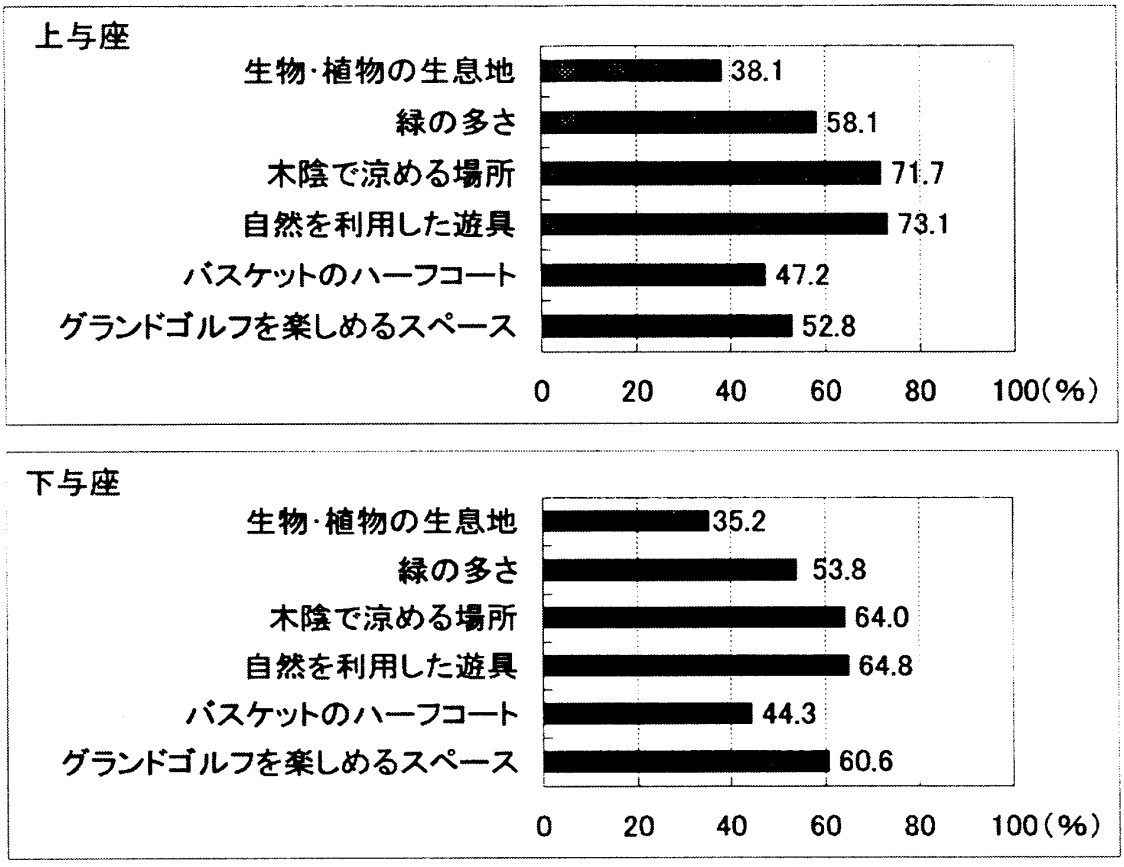
4.「与座馬場」に対する意識

利用頻度及び利用目的：図－6に示すように，馬場の利用に関しては，「行かない」が上与座で7％であるに対して下与座で40%と，「与座ガー」の場合に比べて，上与座と下与座の間に利用頻度に大きな違いがみられる。これは，「与座馬場」が上与座に所在していることと深く関係しており，利用しない理由として，「行きにくい場所にある」「ゆっくりできる場所がない」「時間がない」等を挙げていることからも，日常的に利用しにくい状態であることが伺える。上与座の利用者は伝統行事の場としての利用のほかに，散歩，スポーツ，休息等の日常生活における利用も多く，下与座の利用者のほとんどは伝統行事の場（47%）としての利用に留まっている。

整備に対する希望：「与座馬場公園」の整備に対して望むものを多重選択式で調べた。図－7のように，「自然を利用した遊具」「木陰で涼める場所」に対して関心が高く，「動植物の生息地」への関心は一番低かった。また，他に希望するものを記入式で求めたところ，馬場の広い空間を利用しスポーツ等を楽しむための場所，人が集まって交流を深めるための場所として整備を求める回答が多かった。「与座馬場公園」と併せて「与座コミュニティセンター」の建設が計画されているが，これらは，レクリエーションや健康増進の場として期待が大きいことから，利用しやすいように集落道および周辺環境の一体的な整備が望まれる。



図－6　与座馬場の利用目的



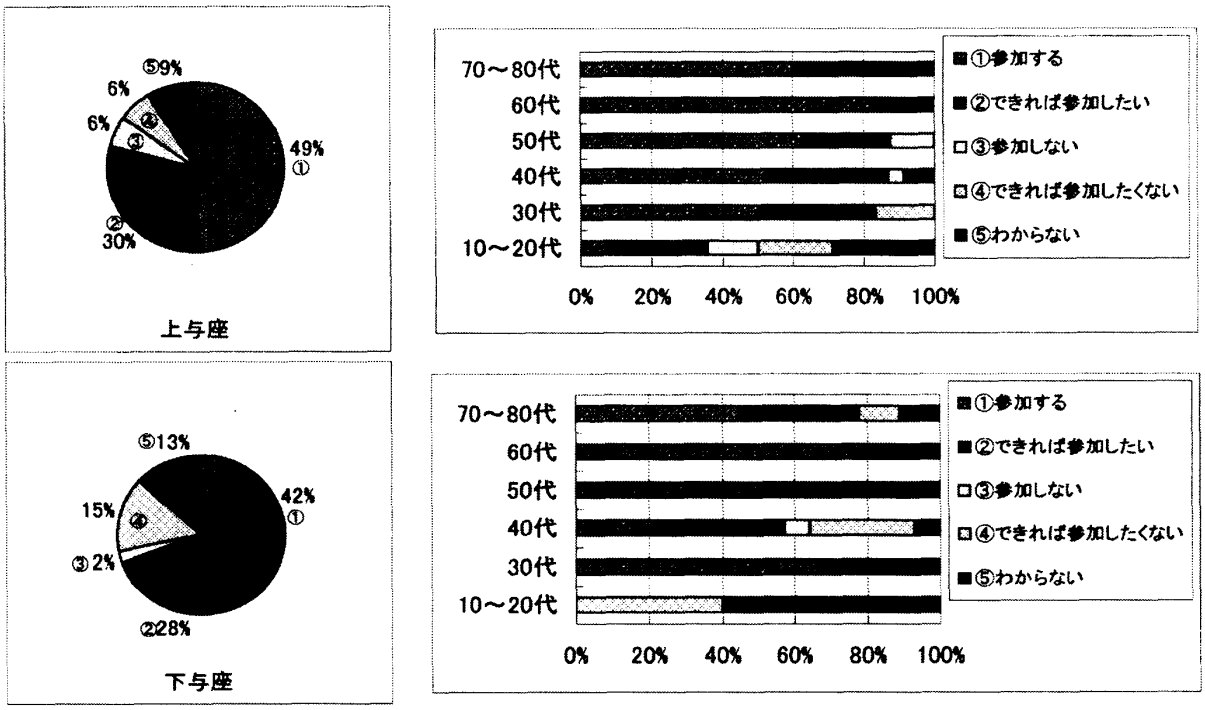
図－7　与座馬場公園整備に対する希望

5．住民の村づくりへの関わり方

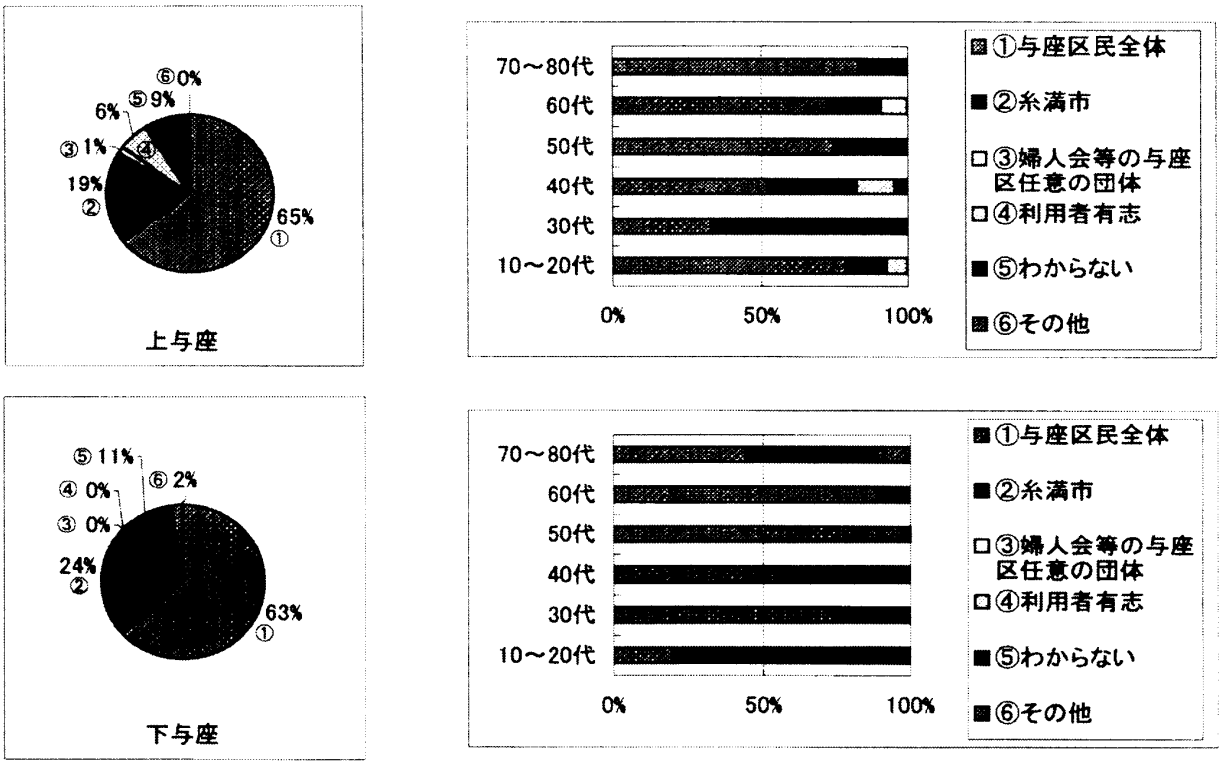
「美しい村づくり」は長期的取り組みが必要であり，住民の村づくりに対する意識を向上させることが重要である[5~7]。そのためにも住民による意見交換会や整備後の維持管理の自主的履行が望まれる。

学習会および意見交換会への参加意識：図－8に示すように，「参加する」「できれば参加したい」に対して上与座が79%，下与座が70%と比較的高いが，年代別にみると若い年齢層の参加意欲が低い。村づくりにはあらゆる年齢層の意見が反映されることが望ましく，若者の参加を促すような働きかけが必要である。

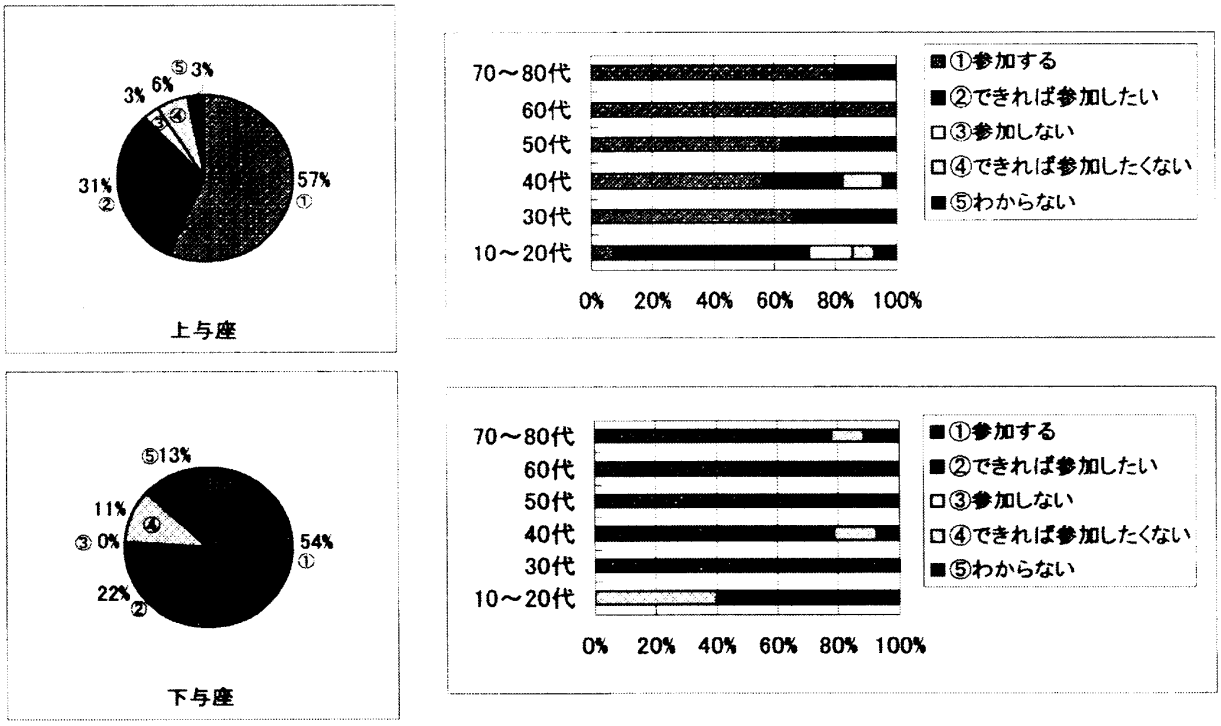
整備後の清掃・管理のあり方：図－9に示すように，「清掃・管理を誰が行うべきか」との設問に対して「与座区民全体」との回答が60%以上となり，「糸満市」「分からない」の30%を大きく上回った。地域資源を住民の手で管理をすべきとの意識が比較的高い。また，回答者自身に清掃・管理に参加する意志があるかどうかに対しては，図－10に示すように，「参加する」「できれば参加したい」が上与座で88%，下与座で76%を占め，かなり意欲的である。しかし，10～20代は参加意欲が低く，地域との関わりが良好でないことが推察される。



図－8　学習会および意見交換会への参加意志



図－9　問「与座ガー・与座馬場整備後，清掃管理を誰が行うべきか」に対する回答



図－10　清掃・管理への参加意志

結　言

糸満市字与座を対象に農村公園整備にむけての住民の意識を把握するためにアンケート調査を実施し，以下の結果を得た。

与座地区では，湧水の「与座ガー」および「与座馬場」は地域資源として高く評価されている。「与座ガー」は親水空間として，「与座馬場」は健康空間および自然と親しむ場としての整備が期待されており，これらの整備は，利用しやすいように散策道も併せ計画されることが望まれる。与座区では村づくりに対する住民の参画意欲が高いので，農村公園のような施設の整備後の維持･管理に期待が持てる。

最後に，この研究を進めるに当たり，アンケート調査に協力して頂いた字与座の自治会長大城昌也氏と区民の皆さん，田幸技建コンサルタント（株）および琉球大学農学部農地及び防災工学研究室の皆さんに謝意を表する。

引用文献

1．糸満市与座区自治会　1999　平成11年11月字費事務監査報告書
2．与座区村づくり推進委員会　1997　与座の村づくり推進計画
3．中村真也，原田奈美，宜保清一　2000　住民の意識・行動に基づく水辺空間としての湧水評価，琉球大学農学部学術報告，**47**：97-106
4．宜保清一，芦谷奈美，藤田智康　1997　農村整備における地域資源の活用－沖縄県大里村の事例－，琉球大学農学部学術報告，**44**：267-273
5．林泰義　1994　地区計画：住民のまちづくりの視点から，農村計画学会誌，**12**(4)：26-30
6．牛野正　1995　地区総合計画の計画組織－農村地域における住民主体による地区総合計画づくりに関する研究－，農業土木学会論文集，**178**：407-416
7．中村好男　1998　ホタルの里づくりにみる住民参加型農村整備と水環境保全，農業土木学会誌，**66**(4)：399-404